

二〇〇一年三月一八日

聖なるものであること(三二)

出エジプト記三一章一二節～一七節

先週と先々週は、出エジプト記三一章一二節～一七節に記されている、主の安息についての戒めについてお話しました。今日も、そのお話を続けます。

出エジプト記三一章一二節～一七節には、

主はモーセに告げて仰せられた。「あなたはイスラエル人に告げて言え。あなたがたは、必ずわたしの安息を守らなければならない。これは、代々にわたり、わたしとあなたがたとの間のしるし、わたしがあなたがたを聖別する主であることを、あなたがたが知るためのものなのである。これは、あなたがたにとつて聖なるものであるから、あなたがたはこの安息を守らなければならない。これを汚す者は必ず殺されなければならない。この安息中に仕事をする者は、だれでも、その民から断ち切られる。六日間は仕事をしてもよい。しかし、七日目は、主の聖なる全き休みの安息日である。安息の日に仕事をする者は、だれでも必ず殺されなければならない。イスラエル人はこの安息を守り、永遠の契約として、代々にわたり、この安息を守らなければならない。これは、永遠に、わたしとイスラエル人との間のしるしである。それは主が六日間に天と地とを造り、七日目に休み、いとわれたからである。」

と記されています。

まず、これまでお話したことで今日お話することと関係のあることを、おさらいしておきましょう。

この戒めは、イスラエルの民に、主の安息を守ることを求めるものです。そして、この戒めは、二五章～三一章に記されている、モーセがシナイの山にご臨在される主の御許に上って行って、主から受けた一連の戒めの最後に記されているものです。その一連の戒めは、主がイスラエルの民の間にご臨在してくださるための幕屋をどのように造るかを示している戒めです。その一連の戒めの最後にあつて、全体を締めくくる戒めが、この安息日に関する戒めです。

このことは、主がイスラエルの民の間にご臨在してくださること、イスラ

エルが主の安息を守ることが深く結びついていることを示しています。確かに、主のご臨在がイスラエルの民の間にあり、イスラエルの民が主のご臨在の御前にある時、イスラエルの民にとって最も自然なことは主を礼拝することです。そして、主の安息を守ることの中心は、主を礼拝することです。

\*

イスラエルの民は、契約の神である主、ヤハウエのご臨在の御前において、主を礼拝するために、主の契約の民として選ばれ、エジプトの奴隷の状態から贖い出されました。

主は、エジプトの奴隷の状態にあったイスラエルの民を贖い出してください。ために、モーセをエジプトの王パロのもとに遣わしてくださいました。そして、モーセとともにいてくださって、エジプトに対するさばきを執行し、イスラエルの民を奴隷の状態から贖い出してくださいました。エジプトの地では、過越の日の夜に、エジプトのすべての初子を撃つことを頂点とする十のさばきを執行されました。主は、そのすべてにおいてイスラエルの民を区別してください。最後には、過越の小羊の血による贖いを備えてくださいました。

このように、主がイスラエルの民をエジプトの奴隷の状態から贖い出してくださいましたことは、御子イエス・キリストが十字架の上で裂いてくださった肉と流してくださいました血による贖いによって、私たちが罪と死の力から、また、罪と死の力によって支配する「暗やみの压制」から贖い出してくださいましたことをあらかじめ指し示してくださいましたものです。

新しい粉のかたまりのままにいるために、古いパン種を取り除きなさい。  
あなたがたはパン種のないものだからです。私たちの過越の小羊キリストが、すでにほふられたからです。

コリント人への手紙第一・五章七節  
神は、私たちが暗やみの压制から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。この御子のうちにあつて、私たちは、贖い、すなわち罪の赦しを得ています。

コロサイ人への手紙一章一三節、一四節  
ご承知のように、あなたがたが先祖から伝わったむなし生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によつたのです。

ペテロの手紙第一・一章一八節、一九節

主が、イスラエルの民をエジプトの奴隷の状態から贖い出してくださったのは、イスラエルの民を「自身の民として、ご臨在の御許に住まわせてくださり、礼拝を中心とするご自身との交わりに生かしてください」ためでした。そのことは、出エジプトの贖いの御業の初めから示されています。

出エジプト記三章一二節には、神である主がモーセをパロのもとにお遣わしになるに当たって、

わたしはあなたとともにいる。これがあなたのためのしるしである。わたしがあなたを遣わすのだ。あなたが民をエジプトから導き出すとき、あなたがたは、この山で、神に仕えなければならない。

と言われたことが記されています。

また、一五章一節～一八節には、主が紅海においてパロの軍隊を滅ぼされた時に、モーセとイスラエルの民が、主に向かって歌った讚美が記されています。

一三節では、

あなたが贖われたこの民を、

あなたは恵みをもって導き、

御力をもって、聖なる御住まいに伴われた。

と言われています。また、一七節では、

あなたは彼らを連れて行き、

あなたご自身の山に植えられる。

主よ。御住まいのために

あなたがお造りになった場所に。

主よ。あなたの御手が堅く建てた聖所に。

と言われています。

そのように、主は、イスラエルの民を、モーセにご自身を現わしてください、ご自身がご臨在されるシナイの山へと導いてくださいました。そして、そこで、イスラエルの民と契約を結んでくださいました。その契約は、イスラエルの民をご自身の民として、ご臨在の御許に住まわせてくださり、礼拝を中心とするご自身との交わりのうちに生かしてください」ための契約でした。そのことを明らかにするのは、先週も取り上げました、一九章四節～六節に記されている、

あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと、また、あなたがたをわしの翼に載せ、わたしのもとに連れて来たことを見た。今、もしあなたがたが、

まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたはすべての国々の民の中にあつて、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから。あなたがたはわたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。

という主の言葉です。

簡単にまとめおきますと、ここでは、イスラエルの民が、主の「すべての国々の民の中にあつて」という言葉と「全世界はわたしのものである」という言葉によって示されている、地にあるすべての民との区別と関係において、主の契約の民とされていることが示されています。

主はこの世界のすべてのものをお造りになつた方です。その意味で、すべてのものは主のものです。全世界のすべての民は主のものです。その中で、イスラエルの民は、主の契約に基づいて、主の「宝」となると言われています。

それは、イスラエルの民の価値によるものではなく、主がアブラハム、イサク、ヤコブに与えてくださった契約に示されている、一方的な愛と恵みによることです。申命記七章六節〜八節に、

あなたは、あなたの神、主の聖なる民だからである。あなたの神、主は、地の面のすべての国々の民のうちから、あなたを選んでご自分の宝の民とされた。主があなだがたを恋慕つて、あなたがあなだがたを選ばれたのは、あなたがあなだがたの民よりも数が多かったからではない。事実、あなたがたは、すべての国々の民のうちで最も数が少なかった。しかし、主があなだがたを愛されたから、また、あなたがたの先祖たちに誓われた誓いを守られたから、主は、力強い御手をもつてあなたがたを連れ出し、奴隷の家から、エジプトの王パロの手からあなたを贖い出された。

と言われているとおりです。

それと同時に、イスラエルの民は、主の御前に「祭司の王国、聖なる国民」となると言われています。これは、主のご臨在の御前に「宝」とされている、主の契約の民の使命のことを述べています。

「祭司の王国」は、祭司的な使命を果たす国ということで、地のすべての民との関係を示しています。イスラエルの民は地のすべての民を代表して主のご臨在の御前を出でて主を礼拝し、主に仕えます。それによって、地のすべての民に対して、主の契約に基づく一方的な恵みによって備えられている贖いをおして、主のご臨在の御前に至る道が開かれていることをあかしすることにな

ります。

「聖なる国民」は、やはり、主の契約に基づく一方的な恵みによって備えられている贖いをおおしのことですが、地のすべての民とは区別されて、主のご臨在の御前に近づけられ、聖別されている民であることを示しています。

それとともに、「聖なる国民」は、主のご臨在の御許から、この世界へと遣わされた民であることも意味しています。

これによって、地のすべての民は、イスラエルとの対比で見られることになります。もちろん、イスラエルの民と地のすべての民の違いは、イスラエルの民が、先に、主の一方的な愛と恵みによって備えられた贖いにあずかって、主のご臨在の御前に生きる民としていただいているということですから。それで、イスラエルとの対比で見られることによって、地のすべての民も、主の一方的な恵みによって備えられている贖いにあずかって、聖められなければならない状態にあることが示されることとなります。

このように、主の契約によって備えられている贖いの恵みによって、主の「宝」とされ、主のご臨在の御前に大切に守られているイスラエルの民は、地のすべての民が主の恵みにあずかるようになるための使命を負っています。

\*

イスラエルの民が主の「宝」とされ、「祭司の王国、聖なる国民」として、地のすべての民が主の恵みにあずかるようになるための使命を負っていることは、より広く、出エジプトの贖いの御業がアブラハム契約に基づいて遂行されていることとのかかわりで見ることが出来ます。（「アブラハム契約」とは、主がアブラハムに与えてくださり、イサク、ヤコブに受け継がせてくださった契約を指しています。）

まず、主が、出エジプトの贖いの御業をアブラハム契約に基づいて遂行してくださったことですが、先週も引用しました出エジプト記二章二三節～二五節には、

それから何年もたつて、エジプトの王は死んだ。イスラエル人は労役にうめき、わめいた。彼らの労役の叫びは神に届いた。神は彼らの嘆きを聞かれ、アブラハム、イサク、ヤコブとの契約を思い起こされた。神はイスラエル人をご覧になった。神はみこころを留められた。

と記されています。

そして、三章六節に記されていますように、主がご自身をモーセに現わして

くださった時に、

わたしは、あなたの父の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。

と言われました。

また、三章一六節、一七節に記されていますように、モーセをイスラエルの民に遣わしてくださるに当たって、

行って、イスラエルの長老たちを集めて、彼らに言え。あなたがたの父祖の神、アブラハム、イサク、ヤコブの神、主が、私に現われて仰せられた。

「わたしはあなたがたのこと、またエジプトであなたがたがどういうしちを受けているかを確かに心に留めた。それで、わたしはあなたがたをエジプトでの悩みから救い出し、カナン人、ヘテ人、エモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の地、乳と蜜の流れる地へ上らせると言ったのである。」  
と言われました。

さらに、六章二節～八節には、

神はモーセに告げて仰せられた。「わたしは主である。わたしは、アブラハム、イサク、ヤコブに、全能の神として現われたが、主という名では、わたしを彼らに知らせなかった。またわたしは、カナンの地、すなわち彼らとどまった在住の地を彼らに与えるという契約を彼らに立てた。今わたしは、エジプトが奴隷としているイスラエル人の嘆きを聞いて、わたしの契約を思い起こした。それゆえ、イスラエル人に言え。わたしは主である。わたしはあなたがたをエジプトの苦役の下から連れ出し、労役から救い出す。伸ばした腕と大いなるさばきとによつてあなたがたを贖う。わたしはあなたがたを取ってわたしの民とし、わたしはあなたがたの神となる。あなたがたは、わたしがあなたがたの神、主であり、あなたがたをエジプトの苦役の下から連れ出す者であることを知るようになる。わたしは、アブラハム、イサク、ヤコブに与えると誓ったその地に、あなたがたを連れて行き、それをあなたがたの所有として与える。わたしは主である。」  
と記されています。

これらのことから、出エジプトの贖いの御業は、主がアブラハムに与えてくださり、イサク、ヤコブへと受け継がれた契約に基づいて遂行されたことが分かります。

\*

主がアブラハムに与えてくださった契約は、創世記一七章一節〜八節に記されています。そこでは、

アブラムが九十九歳になったとき主はアブラムに現われ、こう仰せられた。

「わたしは全能の神である。

あなたはわたしの前を歩み、全き者であれ。

わたしは、わたしの契約を、

わたしとあなたとの間に立てる。

わたしは、あなたをおびただしくふやそう。」

アブラムは、ひれ伏した。神は彼に告げて仰せられた。「わたしは、こ

の、わたしの契約を

あなたと結ぶ。

あなたは多くの国民の父となる。

あなたの名は、

もう、アブラムと呼んではならない。

あなたの名はアブラムとなる。

わたしが、あなたを多くの国民の

父とするからである。

わたしは、あなたの子孫をおびただしくふやし、あなたを幾つかの国民とする。あなたから、王たちが出て来よう。わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に、そしてあなたの後あなたの子孫との間に、代々にわたる永遠の契約として立てる。わたしがあなたの神、あなたの子孫の神となるためである。わたしは、あなたが滞在している地、すなわちカナンの全土を、あなたとあなたの子孫のあなたの子孫に永遠の所有として与える。わたしは、彼らの神となる。」

と言われています。

わたしは、この、わたしの契約を

あなたと結ぶ。

あなたは多くの国民の父となる。

あなたの名は、

もう、アブラムと呼んではならない。

あなたの名はアブラムとなる。

わたしが、あなたを多くの国民の



父とするからである。

という主の言葉は、一二章一節～三節に記されている、

その後、主はアブラムに仰せられた。

「あなたは、

あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、

わたしが示す地へ行きなさい。

そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、

あなたを祝福し、

あなたの名を大いなるものとしよう。

あなたの名は祝福となる。

あなたを祝福する者をわたしは祝福し、

あなたをのろう者をわたしはのろう。

地上のすべての民族は、

あなたによつて祝福される。」

という、アブラムへの召命の言葉を反映しています。

アブラムは、

地上のすべての民族は、

あなたによつて祝福される。

という約束のもとに「カルデヤ人のウル」から導き出されました。これが、アブラムへの契約の基本的な精神となっています。このことを見失いますと、アブラムへの契約は、民族主義的なものと受け止められてしまいます。

そして、このことは、アブラムが約束の子であるイサクを主にささげたときに、主がアブラムに、

あなたの子孫によつて、地のすべての国々は祝福を受けるようになる。

創世記二二章一八節

と約束してくださったことへと受け継がれていきます。

この「あなたの子孫」の「子孫」は単数です、これは集合名詞と取れば主の契約の民としてのイスラエルの民を指すことになり、一人の人物と取れば、約束の贖い主を指すことになります。神である主の啓示の全体の光から言いますと、これは、当面、主の契約の民としてのイスラエルの民を指しつつ、最終的には、新しい契約の主である御子イエス・キリストにおいて成就していきます。

それで、この約束は、アブラムの子孫であるイスラエルの民が、主の契約



に基づいて主の「宝」とされ、「祭司の王国、聖なる国民」として主のご臨在の御前で仕えるようになることに、最初の成就を見ます。

このように、イスラエルの民が、主の「宝」とされ、「祭司の王国、聖なる国民」として主のご臨在の御前で仕えるようになることが、地上のすべての民にとって意味があることであるのは、出エジプトの贖いの御業が、アブラハムへの契約に基づいて遂行されているからです。

私たちがアブラハムの子孫としてお生まれになった御子イエス・キリストの贖いの恵みにあずかって、主の契約の民としていただいているのは、出エジプトの贖いの御業が、アブラハムへの契約に基づいて遂行されたことの成就です。

\*

イスラエルの民が、主の「宝」とされ、「祭司の王国、聖なる国民」として主のご臨在の御前で仕えるようになるためには、まず、主がイスラエルの民の間にご臨在してくださらなければなりません。主がイスラエルの民の間にご臨在してくださらなければ、イスラエルの民は主のご臨在の御前に立って、主を礼拝することを中心とする主との交わりのうちに生きることができません。それで、主は、イスラエルと契約を結んでくださった後、直ちに、ご自身がご臨在されるモーセをシナイの山に上るようにと召してくださり、ご自身がイスラエルの民の間にご臨在してくださるための、幕屋を造るための戒めを与えてくださったのです。

出エジプト記三一章一二節～一七節に記されている、主の安息を守るべき戒めは、その一連の戒めの最後に記されていて、その全体をまとめるものです。このことは、イスラエルの民が、主の「宝」とされ、「祭司の王国、聖なる国民」として、主のご臨在の御前で仕えるようになることは、基本的には、イスラエルの民が、主の安息を守ることによって果たされるものであることを意味しています。

そして、このイスラエルの民の使命は、地のすべての民がアブラハムの子孫によって祝福されるという、アブラハム契約の祝福を実現するものです。

それで、アブラハム契約の祝福は、地のすべての民が、主のご臨在の御許からあふれ出てくる贖いの恵みに包まれて、主とのいのちの交わりの中で、安息にあずかるようになることにあることが分かります。

\*

このアブラハム契約の約束は、最終的には、アブラハムの子孫であり、約束

の贖い主であるイエス・キリストにおいて、私たちの間に成就しています。ガラテヤ人への手紙三章八節、九節に、

聖書は、神が異邦人をその信仰によって義と認めてくださることを、前から知っていたので、アブラハムに対し、「あなたによってすべての国民が祝福される。」と前もって福音を告げたのです。そういうわけで、信仰による人々が、信仰の人アブラハムとともに、祝福を受けるのです。

と記されており、一三節、一四節に、

キリストは、私たちのためにのろわれたものとなって、私たちを律法ののろいから贖い出してくださいました。なぜなら、「木にかけられる者はすべてをのろわれたものである。」と書いてあるからです。このことは、アブラハムへの祝福が、キリスト・イエスによって異邦人に及ぶためであり、その結果、私たちが信仰によって約束の御霊を受けるためなのです。

と記されているとおりです。

御子イエス・キリストが十字架の死をもって成し遂げてくださいった贖いに基づいて、「約束の御霊」が私たちのうちに宿ってくださいることによって、古い契約ものもとで造られた幕屋が「影」の形で示していた主のご臨在は、私たちの現実となっています。そして、御霊によって私たちの間にご臨在してください主とのいのちの交わりのうちに、私たちは、主の安息にあずかる者とされています。

このように、私たちは、御子イエス・キリストの血による新しい契約に基づいて、主の「宝」としていただき、主のご臨在の御許に大切に守られているのです。そして、その上で、「祭司の王国、聖なる国民」として、地のすべての民に仕える使命を委ねていただいています。先週も引用しましたペテロの手紙第一・二章九節に、

しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。

と記されているとおりです。